

岡村恭香がWTA125で 予選を突破し準優勝！

岡村恭香が中国で開催された蘇州オープン（10月5日～11日／ハードコート／WTA125）で、予選から出場して決勝に進出。惜しくも敗れたが、準優勝という結果を出した。WTA125とはWTA ツアー 250の下で、ITF ツアーよりも上のグレードの大会。ランキングが303位にまで下がっていた岡村は、大会1週間前の段階で、「アルタネート30番ほどで大会に出られると思っていたが」と自身のインスタグラムで、その時の状況を告白している。そんな中で予選を戦い抜き、本戦1、2回戦ではフルセットの接戦に勝利して決勝まで勝ち進んだ。



「タフな試合を
毎日潜り抜けて、
決勝まで進めたことは誇り」



岡村は「予選から戦い抜いた7試合、タフな試合を毎日潜り抜けて決勝まで進めたことは誇りに思います。優勝できなかったことは悔しいですが、次回にお預けということで、またより一層邁進してまいりたいと思います」と大会を振り返り、サポートしてくれている方々への感謝の気持ちを綴っている。

実は、5月にITF ツアー W75 で準優勝した久留米の大会後から、この遠征が始まるまで、10大会に出場し9大会で1回戦負けを喫している。「キャリアの中でもトップに数えられるくらい苦しい時間」を乗り越えての、今回の結果だった。ランキングも241位にまで浮上した今、再びグランドスラム予選に出場できるランキングに戻したいところ。

	対戦相手ペア（国）[シード]	スコア
決勝	Rebecca Sramkova (SVK)	3-6 1-6
準決勝	Elvina Kalieva (USA)	6-1 7-6(1)
準々決勝	Zhuoxuan Bai (CHN) [WC]	6-1 7-6(3)
2回戦	Tatiana Prozorova	6-4 3-6 7-6(5)
1回戦	Darja Vidmanova (CZE) [4]	6-2 6-7(6) 6-1
予選決勝	Sijia Wei (CHN)	6-3 6-2
予選1回戦	Priska Nugroho (INA)	6-3 7-6(5)



柴原 瑛菜

Ena Shibahara

ITF W35

オーストラリア・ワガワガ
10月5日～10月11日
シングルス優勝

SINGLES
優勝

テニス
TENNIS

福田 創楽

Sora Fukuda

ITF M15

ルネサンス国際オープン／日本・棚倉
10月19日～10月25日／ダブルス優勝



DOUBLES
優勝

ゴルフ
GOLF

小島 彩夏

Ayaka Kojima

2連覇達成!

いざ!! 鎌倉女子オープン
鎌倉カントリークラブ
10月12日／スコア69

SCORE 69
優勝



コーチングの極意

コーチのプロに聞く

ビジネスマン
必読



部下が思うように仕事をしてくれない。

意思の疎通が難しい。年齢差を感じるなどと思ったことはないだろうか？

コーチングのプロであるコーチ・監督陣に、指導で気を付けていることを聞いた。部下と接する際のヒントにしてほしい。

今回の指導者



増田 健太郎 監督

Kentaro Masuda

PROFILE

男子チームコーチ。全日本選手権2連覇。引退後はMTSテニスアリーナ三鷹の運営を行いながら、日本代表デ杯コーチを務めた。現在は本玉真唯プロのツアーコーチをしている。日本テニス協会公認S級エリートコーチ



「性格はみんな違うので、話し方や伝え方を変えています」

自分でやらせて自主性を育てる できる選手には逆にしてあげる

——負けた選手に話す時に気をつけていることはありますか？

増田 次のモチベーションにつながるように、次に自分が何をしなくてはいいかということを伝えます。もっとこうすれば勝てるようになり、もっとこうしなくてはいいかということを伝えて、今からでも練習に行きたいという気持ちにさせることに力を使っています。

——選手の性格によって話す内容などを変えていますか？

増田 変えています。例えば多少厳しいことにも耐えられる選手には、負けた後でも核心をつくようなことをガンッと伝えてもいいですし、気持ちが弱い選手には、少し時間をかけて上げていったりします。性格はみんな違うので、個々に話し方や伝え方、やらせる方法を変えています。

——やる気が下がってる選手には、どうやっていい方向に導くようにしていますか？

増田 一回ちゃんと話をする時間を取ります。今いる自分の立ち位置や状況を理解させて、次にやるべきことに向かえるように、気持ちを持ち上げるようにしています。

——自分で考えることができない選手に対してはどういう指導をしていますか？

増田 基本的には1から10まで全部をやってあげるではなく、自分でやらせるようにして自主性を育てます。やってあげるとできない選手になってしまいます。だからジュニアの頃は自分でやらせています。逆に自分でできる選手に対しては、やってあげます。例えば練習相手探しや、ボールや練習コートの手配など、できる選手にはしてあげます。すると、その選手は空いた時間を、身体のケアや相手の分析など、色々なことに使えるようになるからです。

——コーチする上でのポリシーを教えてください

増田 選手をどう導くかということを常に考えてます。行きたい目標に対して、いい導き方をしてあげたい。だから、少しでも教えるというのはあまり好きではありません。やるならしっかりと共に歩んで行きたいと思っています。

コーチングのポイント

- ☑ 相手に合わせて話す内容を変える
- ☑ 自分でやらせて自主性を育てる
- ☑ 選手をどう導くかを常に考える